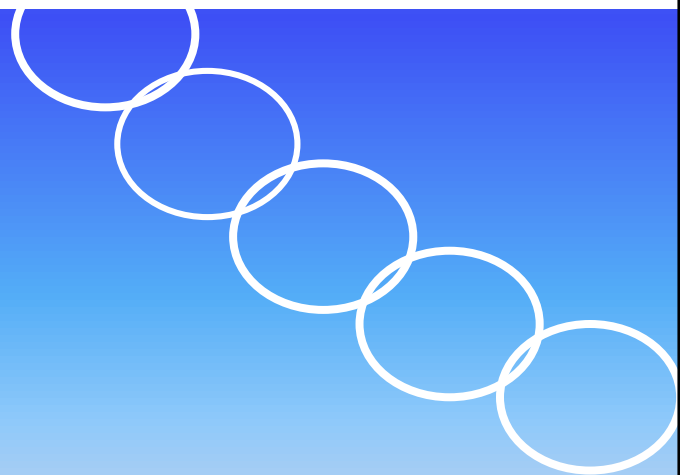


2020年3月期 決算説明資料



2020年5月14日（木）
株式会社 **カネカ**

目 次

業績概要	1
セグメント別 売上高・営業利益	2
事業概況	3
貸借対照表	7
キャッシュ・フロー計算書	8
今後の見通し	9

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績概要

(単位：億円)

	2019年3月期	2020年3月期	増減	
			金額	%
売上高	6,210	6,015	△ 195	△3.1%
営業利益	360	260	△ 100	△27.8%
経常利益	313	202	△ 111	△35.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	222	140	△ 82	△37.0%
1株当たり当期純利益	339.15円	214.70円		
1株当たり配当金	100円	100円		
ROE	6.7%	4.2%		

(注) 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

- 当期の世界経済は、歴史に残る波乱の幕開けになった。前半の約10か月については、米中の貿易摩擦の激化や英国のEU離脱問題、中東の地政学リスクの高まりにより景気は低迷した。今年1月以降は、発生した新型コロナウイルスのパンデミックな感染拡大が引き金となり、世界中の経済活動がほぼ全面停止状態になった。人・モノの動きの遮断は、自動車・航空・鉄道などのモビリティ分野、観光・宿泊、外食、小売・百貨店業界を直撃し、世界的にネットワークとサプライチェーンで繋がるあらゆるビジネスに大きな打撃を与えている。また、その流れを受け原油価格の歴史的な下落をまねく事態となっている。
- このような状況のなか、当社グループの当期の業績は、売上高601,514百万円（前年比3.1%減）、営業利益26,014百万円（同27.8%減）、経常利益20,166百万円（同35.5%減）、親会社株主に帰属する当期純利益14,003百万円（同37.0%減）と減収・減益になった。
- 新型コロナウイルス問題の影響は全体として約30億円の利益押し下げ要因になった。

セグメント別 売上高・営業利益

(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	2019年3月期	2020年3月期	増減		2019年3月期	2020年3月期	増減	
			金額	%			金額	%
Material SU	255,918	241,795	△14,122	△5.5%	25,961	20,625	△5,335	△20.6%
Quality of Life SU	156,674	154,837	△1,837	△1.2%	15,092	14,189	△903	△6.0%
Health Care SU	47,442	46,352	△1,090	△2.3%	10,583	8,917	△1,666	△15.7%
Nutrition SU	158,968	157,431	△1,536	△1.0%	5,930	5,647	△283	△4.8%
その他	2,040	1,097	△943	△46.2%	1,464	547	△917	△62.6%
調整額	-	-	-	-	△22,992	△23,912	△920	-
計	621,043	601,514	△19,529	△3.1%	36,041	26,014	△10,026	△27.8%

※SU：Solutions Unit

- 四半期でまとめると、第3四半期までは自動車、エレクトロニクス分野の需要不振の影響を強く受けた。第4四半期になり主力事業の数量拡大による業績回復のモメンタムに転じたが、新型コロナウイルス問題の発生がそのモメンタムを一時的に打ち消す形となっている。

事業概況 (Material Solutions Unit)

売上高 2,418億円 (対前年同期 Δ 5.5%)

売上高構成比 40.2%

営業利益 206億円 (対前年同期 Δ 20.6%)

Vinyls and Chlor-Alkali

- 塩化ビニル樹脂及び特殊塩ビ系樹脂は、国内向けが前年並みの出荷量に留まるなか、アジアを中心とした海外向け需要は活発で順調に販売を伸ばしたが、新型コロナウイルス問題発生を機に輸出が停滞した。2020年第1四半期もこの影響が続く見通し。
- か性ソーダは、中国経済の減速を背景としたアジア市況低迷が継続し、業績に大きな影響を与えた。

Performance Polymers (MOD)

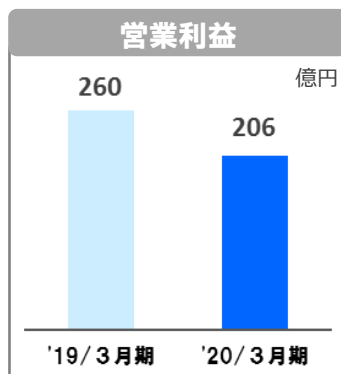
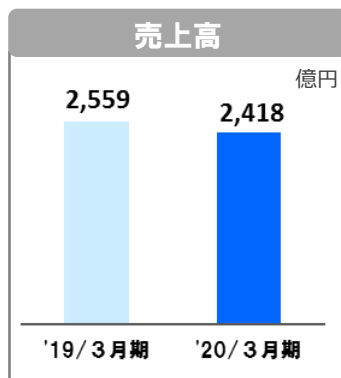
- モディファイヤーは、世界経済減速の影響を受けるなかで、非塩ビ向けの拡販や大型新製品の開発・投入など高付加価値の新たな市場創出への取組みが進んだが、新型コロナウイルス問題により販売減を余儀なくされた。2020年第1四半期も需要の一時的減少が継続する見通し。
- エポキシマスターバッチは、自動車用構造接着剤やエレクトロニクス向けなど最先端の市場ニーズを捉えた用途開発が進み、フル生産・フル販売が続いている。本年7月に稼働する高砂の能力増設設備を計画通りに立ち上げ、旺盛な需要に応じていく。次期増設についても早急に具体化する。

Performance Polymers (MS)

- 変成シリコンポリマーは、ベルギーの能力増強設備も寄与して順調に販売が拡大した。
- ニューフロンティアであるアジア市場の開拓も順調に進めているが、第4四半期は新型コロナウイルス問題により中国向けの出荷が停滞した。

新規事業

- カネカ生分解性ポリマー-PHBH®は、G20など多数の国際会議や展示会、またBBCやCNNなど海外大手メディアで話題となっている。
- マイクロプラスチック問題や環境問題に関心の高い国内外の大手ブランドホルダーから引き合いが殺到し、多くの共同開発プロジェクトがスタートしている。
- 高砂の5,000tプラントが完成し、大手コンビニ、食品メーカー、化粧品メーカーなど世界のブランドホルダーへの採用が順調に進んでいる。
- 20,000t規模の量産プラント建設の準備を急ぎ、経営資源を重点投入しながら早期の事業拡大を目指す。

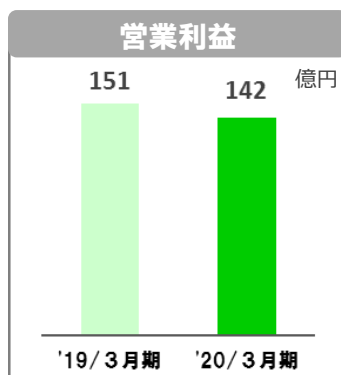
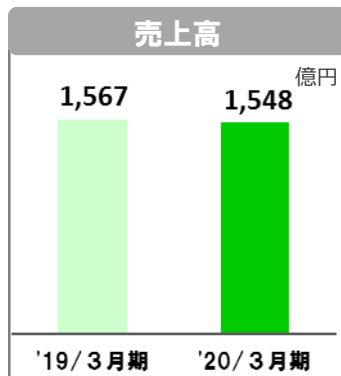


事業概況 (Quality of Life Solutions Unit)

売上高 1,548億円 (対前年同期 $\Delta 1.2\%$)

売上高構成比 25.7%

営業利益 142億円 (対前年同期 $\Delta 6.0\%$)



Performance Fibers

- ・アフリカ市場の新規需要創出をめざしガーナに商品開発センターを設置した。
- ・需要旺盛な撥水性ファイバーなど高機能、高付加価値商品に取り組み、マーケット密着型の販売を強化。
- ・第4四半期は、新型コロナウイルス問題により一時的にマレーシア工場の操業制限やアフリカ向けの出荷減を余儀なくされ、2020年第1四半期もこの影響が続く見通し。

Foam & Residential Techs

- ・スチレン系発泡樹脂および押出ボードは、高断熱・高発泡などの新製品の投入や物流の合理化を進め、収益が増加した。
- ・発泡ポリオレフィン、新型コロナウイルス問題による世界的な自動車減産の影響を受け、収益が低迷した。自動車減産の影響は2020年第1四半期も継続する見通し。

PV & Energy management

- ・高効率太陽電池の市場評価が高く、大手ハウスメーカー向けの販売が順調に拡大し、収益が大幅に改善した。
- ・地球環境意識が高まるなか、自然再生エネルギーの最有力ソリューションとして太陽光発電システムが改めて注目されている。高効率品の供給能力をタイムリーに増強するとともに、大手建設会社との住宅・ビルのゼロエネルギー・マネジメント・システムの開発や大手自動車メーカーとの車載用シースルー太陽電池の開発に共同して取り組み、需要の拡大に応じていく。

E & I Technology

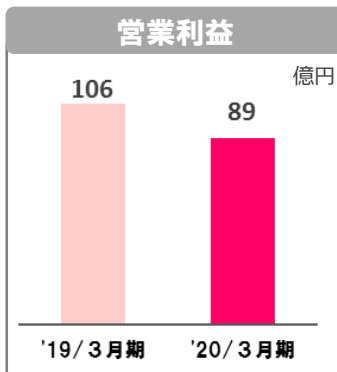
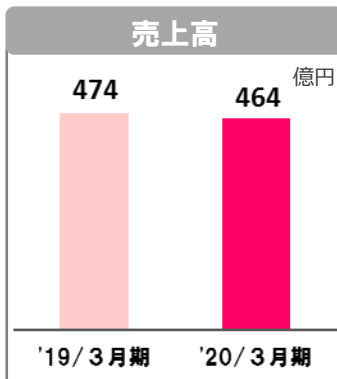
- ・ポリイミドフィルムとグラファイトシートは、スマートフォン市場の減速の影響を強く受けた。第4四半期には、新型コロナウイルス問題による中国などのサプライチェーンの停滞やマレーシア工場の操業制限の影響を受けた。2020年第1四半期にも同様の影響が続く見通し。
- ・今後拡大が見込まれる有機ELディスプレイや5Gスマホ、自動運転システム向けセンサー素材など、市場での当社イノベーション技術への期待が高く、デジタルトランスフォーメーションを支える独自の新製品の研究開発を加速させる。

事業概況 (Health Care Solutions Unit)

売上高 464億円 (対前年同期 $\Delta 2.3\%$)

売上高構成比 7.7%

営業利益 89億円 (対前年同期 $\Delta 15.7\%$)



Medical Devices

- ・カテーテルは、昨年11月に発売した塞栓コイルなど新製品の顧客の評判が高く、販売が増加し、今春には米国での販売を開始した。
- ・ベトナム工場を増設し、薬剤塗布型バルーンカテーテル・血流測定機器など新規医療領域を積極的に拡大していく。また、欧米の医療機器会社との技術・資本提携を通じ事業の飛躍的拡大に取り組んでいく。
- ・リクセルの新型コロナウイルス臨床試験研究が開始された。当社の血液浄化技術を感染症対策に適用すべく研究領域を広げていく。
- ・計画していた技術導出は新型コロナウイルス問題の発生により合意が2020年第1四半期に遅延した。

Pharma

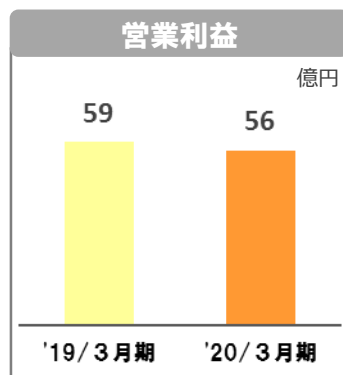
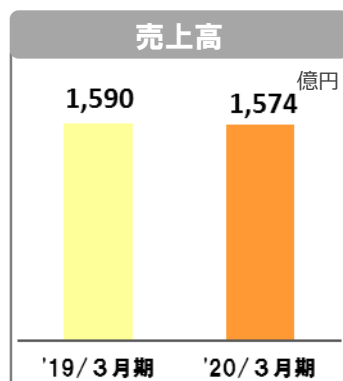
- ・第4四半期に見込んでいた低分子医薬品のまとまった出荷が新型コロナウイルス問題の影響を受けて2020年第1四半期以降にずれ込んだ。
- ・次年度は、大阪合成のAPI向けの能力増強やカネカユーロジェンテックのバイオ医薬品向けの能力増強が戦力化し、収益拡大が見込まれる。
- ・カネカユーロジェンテックにおいてはベルギー政府の緊急要請を受け、新型コロナウイルス検査試薬の供給を開始した。また、アビガン原薬供給につき富士フィルムと合意した。
- ・mRNAやプラスミドDNAなど最先端の高度技術を活用したワクチンの受託生産や抗ウイルス薬の開発に関する集中研究チームを立ち上げた。

事業概況 (Nutrition Solutions Unit)

売上高 1,574億円 (対前年同期 $\Delta 1.0\%$)

売上高構成比 26.2%

営業利益 56億円 (対前年同期 $\Delta 4.8\%$)



Foods & Agris

- ・食パン向け販売は好調に推移したが、菓子パンやコンビニの不振の影響を受けた。
- ・第4四半期には、新型コロナウイルス問題からインバウンド・土産市場の悪化や休校による給食需要減等、厳しい環境となったが、一方では内食化が進み、冷凍食品・カップ麺需要が増加し、カネカサンスパイスの業績は過去最高を記録した。SV全体としては業績は前年並みとなった。
- ・乳製品事業の「パン好きの牛乳」シリーズは、市場で高評価を得て売上高が飛躍的に伸びており、今後、乳製品の本格的工場の建設を急ぐ。
- ・日本のパン文化の海外への移植を進めるべく建設しているインドネシア新工場が今夏にも稼働することから、アジアでの事業拡大に一層の弾みがつくものと考えている。

Supplemental Nutrition

- ・還元型コエンザイムQ10の米国大手ブランドホルダー向けの出荷のずれ込みが生じた。
- ・昨年子会社化したスペインAB-Biotics社の乳酸菌は、販売好調な欧州に次いで米国、日本の販売を開始する。
- ・効果効能の科学的データの情報発信を強化する組織再編を行い、多様なサプリメントのブランド戦略を加速していく。また、消費者の健康意識が高まるなか、Foodsの乳製品事業とのシナジーを活かし、ヨーグルトなど美味しさと機能を両立させた食の展開も強化していく。

貸借対照表

(単位：億円)

	2019年3月末	2020年3月末	増減
資産の部			
流動資産	3,142	3,069	△ 74
固定資産 等	3,453	3,464	11
資産合計	6,596	6,533	△ 63
負債の部			
有利子負債	1,205	1,308	103
その他	1,783	1,683	△ 100
負債合計	2,989	2,992	3
純資産の部			
自己資本	3,370	3,315	△ 55
非支配株主持分 他	237	226	△ 11
純資産合計	3,607	3,541	△ 66
負債、純資産 合計	6,596	6,533	△ 63
自己資本比率	51.1%	50.7%	
1株当たり純資産	5,166.88円	5,082.08円	

- 総資産は、売掛金や投資有価証券の減少等により減少
- 負債は、借入金の増加等により増加
- 純資産は、その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の減少等により減少

キャッシュ・フロー計算書

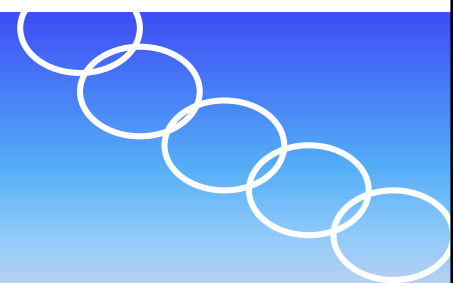
(単位：億円)

	2019年3月期	2020年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	411	400
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 472	△ 418
フリー・キャッシュ・フロー	△ 61	△ 18
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 10	△ 5
現金及び現金同等物の増減額 (含 換算差額、連結の範囲の変更に伴う増減)	△ 74	△ 24
現金及び現金同等物の期末残高	400	376

- 営業CFは、税金等調整前当期純利益や減価償却費等により400億円の収入
- 投資CFは、有形固定資産の取得による支出等により418億円の支出
- 財務CFは、配当金の支払等により5億円の支出

- 新型コロナウイルスの世界的感染拡大で世界経済が縮小の危機にあると思われ、感染を早期に封じ込められるかは予断を許さない状況にある。そのことを踏まえ、例えば、IMFは4月に2020年の世界経済の成長率を▲3%に引き下げた。このマイナスは年前半の著しい落ち込みによるもので、4-6月をボトムに年後半からは回復に転じるという見方が主流となっている。
- このような情勢下、各国は最大限の経済対策を打ち出し景気の下支えに鋭意取り組んでいる。しかしながら、感染症がいつ終息するのか不透明な状況にあり、明確な景気回復のタイミングが読めていない。当社グループの事業領域は国内外で多岐にわたっており、需要の回復、原油価格の正常化、為替の動向など各事業分野での業績見通しを測る環境要素を推定しづらい状況にある。
- したがって、現時点で業績予想の合理的な算定が困難であることから、2021年3月期の連結業績予想については未定とする。今後、業績予想の開示が可能となった時点で、速やかに公表する。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



<IRに関するお問い合わせ>

株式会社 **カネカ** IR・広報部

TEL : 03-5574-8090